

学部・院生のための研究キャリア発見マガジン

2017. 夏号
vol.37
[インキュビー]

incu・be

特 集

自分だけの研究キャリアを見つける!

ポイント



incu•be vol.37 contents

P04 特集 **自分だけの研究キャリアを見つける! ポイント9つ**

- 04 勇気をもって自ら歩いたところが、振り向けば道になっている
(株式会社リバネス 丸 幸弘)
- 06 欲張りになって、自分だけの研究テーマを手に入れる
(徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 森本 恵美さん)
- 07 気楽に、流れに乗って。そうしたらここにたどり着いていた
(シャープ株式会社 ビジネスソリューション事業本部 高崎 まいさん)
- 08 探しに行こう 研究者としての新しい生き方 Career Discovery Forum 2017

新・「博士号」の使い方

- 03 「博士号」を活かしたければ「専門分野」と「専門性」を区別しよう (1)
(ヤンマー株式会社 中央研究所 小西 洋充さん)

探しに行こう 自分の場所

- 10 博士号が、世界を広げる武器になる!
(大阪府立大学 大学院工学研究科 仲村 英也さん)
- 12 科学の魅力を伝えるために必要な「専門性」を磨く
(育英高等学校 松浦 宜弘さん)

未来を掴む

- 14 海底探査につながる技術をもつ研究者 必見! ー海底の世界地図を創りませんか?ー
- 15 研究者は、世界を変える力をもっている ーユニクロから最先端課題への招待状ー
- 16 自由な研究を応援します! リバネス研究費 第37回募集要項発表! !
- 17 これからの研究者に必須のちからを身につけよう!
サイエンスブリッジリーダー育成講座 2017年前期講座
リバネスキャリアイベント「Visionary Cafe」東京&大阪で開催

紹介します! 研究キャリア応援講座 18

探索中 わたしが活躍できる場所

- 19 できることを増やしたい。本当にやりたいことが見つかったときのために
(大阪府立大学 大学院工学研究科 D1 大安 晃さん)

研究キャリアの相談所 募集中の求人情報 20

研究に効く〇〇

- 24 『ビジネスモデルを見える化する ビクト図解』

「博士号」を活かしたければ 「専門分野」と「専門性」を区別しよう(1)

2008年3月に博士号を取得後、ヤンマー株式会社に入社しました。最初に配属されたのは、大分県にあるマリファーム。藻類培養技術や自動化技術を使って、二枚貝のエサや養殖用の種苗を生産・供給しながら、養殖に関する要素技術の研究・開発を行う養殖技術研究施設です。その時点では、博士号は実際のところ役に立っていません。私が入社前にやっていたのは、誰も知らないこと、見たことがないものを発見する「研究」でしたが、マリファームで行われているのは「開発」でした。研究で得られた知見をもとに具体的な製品を作るのです。そのための目標値があり、社員の工数が管理されているということにも戸惑いました。現場での力仕事も経験しましたよ。

学生時代の私の研究テーマは、植物の光合成の様子を、生きたまま立体的に観ようというものでした。何とか自分の専門性を活かそうと、二枚貝のエサである植物プランクトンの活性・濃度センサーを作ろうとしました。養殖槽内のプランクトン濃度と活性を測定できれば、貝が食べ残さないように給餌量をコントロールすることができるからです。結局、コストと使い方の面でうまくいきませんでした……。

その後に作った水位センサーは、簡易なものでしたが、現場のスタッフはとても喜んでくれました。このとき初めて、知恵の使い方がわかった気がします。これまで自分が何を専門にしてきたかは関係ない、役に立つもの、使えるものを作るための手段として専門性を使うんだ、と。やっと、「この分野で博士号を取得した」というプライドを脱ぎ捨てることができたのです。(続く)

(取材と文・磯貝 里子)



こにし あつみ
小西 洋充 博士(農学)

ヤンマー株式会社 中央研究所
バイオイノベーションセンター 倉敷ラボ 所長

2008年、東京大学大学院農学生命科学研究科(生物・環境工学専攻)で学位を取得後、ヤンマー株式会社に入社。マリファームでの勤務を経て、2011年7月からは本社にて施設園芸、土づくりの事業に携わる。2015年、バイオイノベーションセンターの所長に就任。

自分だけの研究キャリアを

「研究」を続ける道は、大学に残るか、自身の研究テーマと同じ分野の企業の研究職に就くか——。それだけだと思っていませんか。

研究者には、もっと多様な活躍の場があります。でも、それってどうやったら見つけることができるのでしょうか？

それぞれの道を、自信をもって歩む3名の研究者にこれまでを振り返ってもらい、自分だけの研究キャリアを見つけたことができたポイントを聞いてみました。

勇気をもって自ら歩いたところが、振り向けば道になっている

丸さんのキャリアディスカバリーポイント

- ・一生をかけて成し遂げたいことを考える
- ・本気でやるために、目標を立てる
- ・専門性とコミュニケーション能力の両方を身につける

大学院修士課程在学中に、理工系の大学生・大学院生15人でリバネスを立ち上げた丸幸弘さん。研究者を取り巻く環境の悪さを目の当たりにし、自分たちで未来を変えていくことを決意したのだ。博士号をもつ丸さんは「研究者こそがこれからの世の中で活躍できる」と断言する。その理由は、研究者なら誰もがもつ強みにあった。

一生かけて解決したい課題を見つけた

バンド活動に明け暮れていた学部生時代。丸さんは、世の中で働く理由が見出せず、どうしても周りと同じように就職活動をするのができずにいた。その一方で、「誰も知らない新しいことを知りたい！見たい！」という強い気持ちがあった。旅行が好きなのも、今まで知らなかった場所に行き、知らなかったものを見られるからだ。それを打ち明けたときの大学の恩師の言葉は、「君は、研究者に向いているね」。研究とは、誰もやっていないことをやって、誰も知らないことを見付けに行く、旅のようなものなのだと知った。

研究の魅力に目覚めた丸さんは、東京大学の修士課程に進学したが、研究に打ち込む日々を過ごす中であることに気づいてしまう。「このまま研究を続けていても、世の中で活躍できない……？」東京大学にいるとても優秀な先輩でさえ、大学のポストや就職先がない。研究成果が出て論文や特許になっても、世の中の人に理解されなければそれらが使われることはない。そして、研究はこんなに面白いのに、小・中学生の理科離れが進んでいて、将来一緒に研究する仲間が減っている——。「僕は、これらの課題を本気で解決したいと感じた。リバネスは、それを解決するために立ち上げたんだ」。丸さんの研究キャリアは、ここで大きく転換した。

本気でやるなら、目標が必要だ

学生ベンチャーの創業者である丸さんは、今の学生にとっても非常に興味深い存在だ。大学の講演などでは、起業当時の丸さんと同年代の学生たちからさまざまな質問が投げかけられる。多いの

見つける! ポイント9つ

丸 幸弘 さん

株式会社リバネス 代表取締役 CEO

は、「ベンチャーをやるのは大変なのに、どうしたらモチベーションが続くのか」というものだ。丸さんの答えは、「モチベーションは、下がったら持ち上げなきゃいけない。それは続かないよ。でも、本気で解決したい課題に対する『情熱』は、続けようと思わなくても、自分の中から勝手に湧いてくるんだよね」。

とはいえ、子どもたちの理科離れ、博士人材の活躍の場がない「ポストク問題」、研究成果を自ら事業化するアントレプレナーの不足——。これらの大きな社会課題を解決するというのは並大抵のことではない。丸さんは、本気で取り組むために「30歳までの目標」を3つ立て、自らを追い立てていた。1つ目は、リバネスと学業とをしっかりと両立し、3年間で博士号を取得すること。2つ目は、たくさんの人と連携してサイエンスを世界中に広めるために、会社を10社作ること。そして3つ目は、1億円の借金をすることだ。「お金を借りるには信用が必要。30歳までに、1億円を借りられるくらい信用される人になりたいと思って」。目標は、もちろん3つとも期限内に達成されている。

相手を知ろうとする力を鍛える

大きな課題を解決することは、自分1人ではできない。人を巻き込み、チームで取り組むことが必須だ。丸さんはこれまで、たくさんの人を仲間にしてきた。「研究者は専門性が強み。でもそれだけじゃなくて、ビジョンをわかりやすく伝えて



仲間を巻き込む、コミュニケーション力を磨くことが重要なんだ。ただし、「勘違いしてはいけないのは、本当に大事なのは『相手を知ろうとする力』であり、『自分のことを伝える力』ではないということ」。コミュニケーションは、まず相手を知ることから始まる。それから相手と自分の間にあるギャップを考え、それを埋められるような私たちで自分の考えを示すのだ。これは、誰もがができることではない。だが、トレーニングによって伸ばすことは可能だ。

自分にとっての課題を見つけ、目標を定めて一歩を踏み出す。人の話に耳を傾け、ビジョンを伝えてチームをつくる。仲間と一緒に、課題解決に向けて努力を重ね、前進する——。これからも、それを続けていだけだ。「あるとき気がついて振り返ったら、そこには自分だけの道ができていた。人生ってというのは、そもそもそういうものなんだと思うよ」。

(文・戸金 悠)

※本記事は、2017年度の大阪大学工学部総合科目Ⅲ「キャリアデザイン」にて丸が行った講義の内容をもとに作成しました。

丸 幸弘 (まる ゆきひろ) プロフィール
2002年6月、東京大学大学院在学中に理工系大学生・大学院生のみでリバネスを設立。日本で初めて、「最先端科学の出前実験教室」をビジネス化した。世界中から集めた「知」を組み合わせ、新しい知識を生み出す「知識製造業」を営む。ユーグレナ技術顧問など、多数のベンチャー企業の立ち上げにも携わるイノベーター。博士 (農学)。

欲張りになって、 自分だけの研究テーマを手に入れる

森本さんのキャリアディスカバリーポイント

- ・研究テーマは、出会うのを待つのではなく、自分で自分のものにする
- ・研究することと研究者になることは違うと心得る
- ・欲張りになる

「もうすぐ大学を卒業するんだな、と思ったらさみしくなって、家か車を買おうと思った」と話すのは、徳島大学の森本恵美さん。そのときの両親の言葉が、森本さんを大学院へ、そして研究者へと続く道に進ませた。「ものを持って死ぬことはできない。でも、学んだことや経験したことはどこにでも持っていける。だから『身につけて』しまいなさい」。

これは自分のものだ!という直感に従う

学部4年生のときの両親の言葉に従い、学問を身につけようと大学院に進学。女性では非常にめずらしい土木分野の研究者になった。テーマは、公共事業のコストや契約に関するデータを数値化して分析し、最適化を図ろうという、概念からして新しいもの。まだ誰も手をつけていない領域で、成果が出ればそのまま社会の仕組みに取り入れられる可能性がある、社会との接点をもつことができることに興味がわいた。

自分が何をしたいかわからないまま取り組み始めたこの研究は、今や森本さんのライフワークになっている。修士課程でこのテーマに出会ってすぐに「これは自分が手放したくない、ずっとやっていきたいものだ」という直感があった。「何でもやり始めたら楽しめる性格。それだと自分だけの研究テーマに「出会う」なんてことはない。『これだ!』と思ったものを、自分の力で自分のものしたんです」と笑う。

研究者にならなくたって研究はできる

何人もの先輩や仲間が大学を辞め、研究を手放す姿も見えてきた。一方で、森本さんは「研究と

森本 恵美 さん

徳島大学大学院
社会産業理工学研究部 特任助教



職業は関係ありません。PCとデータさえあれば、ラボじゃないどこかでも研究できる。そういうテーマを選びました」。それでも博士課程に進んだのは、文献が揃っていたり、ディスカッションの相手がいたりという、研究に適した環境が揃っていると考えたからだ。

現在は、学生の育成や産学連携にも携わっているが、そういった仕事の中からも自分の研究のタネを見つけることができる、と話す森本さん。実は、近いうちに海外留学をしたいと考えている。「今からでも自分はまだまだできる、って思っているんです」。海外で、視野と自分の可能性を広げたい。森本さんの研究生生活は、これからが本番だ。
(文・磯貝 里子)

森本 恵美 (もりもと えみ) プロフィール

2005年3月、徳島大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期課程を修了。企業に研究員として勤めながら同大学院情報工学システム専攻博士後期課程に進学。2008年3月に修了するまでの間も、徳島県内小学校の講師や徳島大学の助教などを兼任してきた。2017年4月より現職。博士(工学)。

気楽に、流れに乗って。 そうしたらここにたどり着いていた

高崎さんのキャリアディスカバリーポイント

- ・落ち込むことがあったら、発想を変えてみる
- ・流れに乗れば、どこかには行ける。楽な気持ちでいる
- ・どの道に行っても後悔しないよう、いま目の前のことを懸命にやる

大学入学直後のガイダンスで配られたノートにあった、「あなたの夢はなんですか？」という質問。今はシャープ株式会社に勤める高崎まいさんは、研究職に就きたいという思いから「大学院に進学したい」と記していた。「そうなれたらいいな」という気持ちで書いたものだったが、気がつくやう、描いた通りのキャリアを歩み始めている自分がいた。

発想の転換で、状況をポジティブに捉える

高崎さんは、大学の早期卒業制度を活用し、学部を3年半で卒業している。修士課程も、1年半に短縮しての修了を目指していた。しかし、修士2年の11月に、このままでは早期修了ができないことが発覚、「相当ヘコみました」と話す。

ただ、ここからの立ち直りは早かった。「落ち込んでいても仕方ないので、発想を変えたんです。あと『半年も』学生でいられる、好きな実験がもっとできる！って」。早期修了のためには早く結果を出して論文を書かなければ、という焦りから、泣きながら実験をしたこともあった。そんなプレッシャーから解放された高崎さんは、自分で考えた実験系を試したり、これまでなかなかできなかった学会発表にチャレンジしたり。思いがけず手に入れた半年間を、存分に活用した。

力を抜いて、まずは目の前のことをやる

シャープへの入社は、内定先が1つもなく沈んでいたときに受け取った、学校推薦の案内がきっかけだった。この枠で採用が決まれば、辞退することはできない。しかし、「学校推薦だからといって必ず内定をもらえるわけではないし、受かった

高崎 まい さん

シャープ株式会社
ビジネスソリューション事業本部



ら何かの縁だと思って入ろう」という気持ちで臨んだ。就職が決まらなかったらどうしよう、と先のことを考えると、変な力が入ってしまう。まずはエントリーシート、次に面接、と目の前のことに1つ1つ向き合うようにした。「プレッシャーから解放された後に力を発揮できるタイプみたいです」と高崎さんは笑う。

先のことはどうにかなる。だから、いま目の前にあることを一生懸命やる。その繰り返しでたどり着いた、無機材料化学という自身の専門性を活かして、人の役に立つ材料を開発するという現在の仕事は、高崎さんが学部生のときに思い描いていた将来像そのものだ。 (文・磯貝 里子)

高崎 まい (たかさき まい) プロフィール

2013年9月に明治大学理工学部応用化学科を早期卒業後、同大学院理工学研究科に進学。2015年9月に大学院を修了、同年10月にシャープ株式会社に入社。現在は、ビジネスソリューション事業本部次世代技術開発センターにて、新しい材料の開発に取り組んでいる。

探しに行こう 研究者としての新しい生き方 Career Discovery Forum 2017

これは、研究の話をするだけの学会でも、採用に向けた話をする合同企業説明会でもありません。研究者としての生き方を多様な可能性の中から発見できる、これまでになかったキャリアイベントです。

偶発的な出会いで未来を見つける

自ら問いを立てて未知の分野を開拓していく研究者の力は、新たなイノベーションを生み出すために今まさに産業界が求めている力です。しかし、これまでの企業説明会などでは、企業から仕事の情報を発信し、学生が集まって話を聞く一方通行のコミュニケーションが行われてきました。学生は自分の専門性が活かせるはずという先入観で企業を選び、企業は既存の事業に強い人材が過剰に集まってしまう、というミスマッチが生じています。本イベントでは、大企業、ベンチャー、研究者をミックスし、双方向で発信することで、偶発的な出会いを生み、見えなかった未来を創造するしかけを用意しています。

Career Discovery Forum 2017

イベントの中心は研究への「熱」

「化学系の研究者が就職するなら〇〇化学株式会社」といった固定観念はありませんか？研究キャリアで活きるのは、研究分野ではなく研究への「熱」です。あなたの熱を、異分野の企業や学生同士でぶつけ合えるようなしかけを用意しています。また、大手企業で新規事業を開発する女性研究員や、会社の大きさに関係なくのめり込むほど熱く「ハマる」ことでキャリアを選んだベンチャー企業の社員が本音を語るセッションも開催します。参加条件はただ1つ、研究に対する「熱」を持っていることだけです。

開催概要

- 開催日時 2017年6月24日(土)10:00～18:00
- 開催場所 日本科学未来館 7階(東京都江東区青海2丁目3-6)
- 対象 大学院生・ポスドクなど研究人材
- 主催 株式会社リバネス

詳細はこちら <https://cdf.lne.st/>



探しに行こう 自分の場所

目標を見つけ、実力を養い、理想の場所にたどり着くために
どんな道を進むべきだろうか。

どんな研究者になりたいのか、活躍するには何が必要なのか。
そして、どんな研究キャリアがあるのか。

ただ、じっと待っていても答えは見つからない。
いろいろな人に会い、さまざまな場所を見ることで
自分の未来を描くヒントを見つけよう。

変化を楽しみながら
さあ、自分の場所を探しに行こう。

博士号が、世界を広げる武器になる！

仲村 英也 さん

大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授

博士課程に進学する。その決断をする際、大半の学生は、他の人より大学に長く残ること、それによってキャリアの幅が狭まるかもしれないことに対する漠然とした不安が、たびたび頭をよぎることになるだろう。しかし、大阪府立大学の仲村英也さんは違った。自分のキャリアを納得して選び、粉体工学という分野で自信をもって研究を進めている。



外とのつながりがハードルを下げてくれた

中学・高校時代から数学や理科が好きで、大学進学時は当然のように理系の学部を選んだ。入学後も相変わらず科学や研究は好きだったが、「博士課程への進学は考えていませんでしたね」と仲村さんは話す。周りの先輩は、ほとんどが修士課程を修了して企業に就職しており、博士課程に行く人は非常に少なかった。仲村さん自身もまた、博士号を取ることにハードルの高さを感じていた。しかし、修士1年の春、そんな仲村さんの進路を大きく変化させるできごとがあった。アメリカの大学から、パーソン留学生とその指導教員が、仲村さんのラボと共同研究を行うために来日したのだ。

共同研究で用いる機器の使用方法を知っている学生が仲村さんだけだったこともあり、1か月間、仲村さんは留学生とマンツーマンで夜通し実験を行った。また、先生同士のディスカッションにも参加する中で、研究者に対して強い憧れを抱くようになった。「自分のやっている研究は、いろいろなところでつながっている。決して、この研究室の中だけで完結しているものではないんだ、ということを感じたのです」。たどたどしい英語でも何とか留学生とコミュニケーションをとることができ、「海外へのハードルも下がりましたね」と振り返る。この機会がきっかけとなり、仲村さんは博士課程に進学することを決めた。

研究テーマも、自分で納得して決める

仲村さんが現在取り組むテーマは、細かい粒子「粉体」を扱う現象の解析だ。粉体は固体に分類されるが、扱い方によっては気体や液体のように振る舞うことがあるため、粉体を使った製品の生産は容易ではない。しかし、その加工プロセスは現場のノウハウや経験に頼っている部分が多いため、仲村さんは、現象の本質を科学的に解明し、理論に基づいた粉体プロセスの装置設計、運転を目指している。誰もやろうとしてこなかったベーシックな部分だ。「僕がテーマを選ぶときに優先するのは、自分が興味のあることや、やりたいことです」。研究にもトレンドというものがあるが、自身が「興味をひかれたこと、強く必要だと感じたこと」をテーマにすると決めている。「自分で納得して決めたテーマなら、何が起きても自分で責任を取って進められるでしょう」。

子どもの頃、実は社会科も好きで、歴史の本をよく読んでいたという。「研究でも、歴史——過去の研究を知ることは重要ですよね」。自分の研究が、これまでどんな経緯で行われてきた、どんな研究の先にあるのかを知りたいのだという。とにかく、自分の中で納得したい。小さい頃から変わらない、仲村さんの特徴が表れている。

自分だけの武器が欲しいなら

「まだ大学に『残る』の?」と言われてたり、「博士まで進学するとキャリアの選択肢が『狭まってしまう』のでは?」と考えてしまったり。博士号を取ることにについては、このように未だネガティブ



なもの根強く残っている。しかし、仲村さんは、「大学院には、自分で納得して『進む』もの」、「博士号は、研究室の外へと世界を『広げて』くれるもの」だという考えをもつようになった。博士号を取得するには、自分が所属する組織の外の人から評価を受け、1つの研究を世に出すというプロセスを踏む必要がある。その結果、世界とコミュニケーションをとることができる自分だけの「武器」を手に入れることができるのだ。一般的な、つまり自分とは異なる世界にいる人の視点でものごとを捉えたり伝えたりするトレーニングの成果として——。

もし、「オリジナルの武器を手に入れて社会で活躍したい」と願うのであれば、自ら納得して博士後期課程に「進学する」といった選択を考えてみよう。それはきっと、あなたを広い世界へと誘ってくれるはずだ。
(文・大安 晃)

仲村 英也 (なかむら ひでや) プロフィール

1980年沖縄県生まれ。2008年3月に大阪府立大学大学院工学研究科化学工学分野博士後期課程を修了後、フロリダ大学の粉体工学研究センターにて博士研究員として研究を行う。2010年、博士後期課程在籍時に所属していた研究室に助教として着任。2015年より現職。博士(工学)。

科学の魅力を伝えるために 必要な「専門性」を磨く

松浦 宜弘さん

育英高等学校 教諭

「教員になりたい。だから博士課程に進むことを決めました」。そう語るのは、兵庫県にある育英高等学校に教員として勤めながら、京都大学大学院理学研究科に所属しハタネズミの生物地理を研究する、松浦宜弘さんだ。博士号そのものではなく、それを取得するまでの過程で得られるものがこれからの自分に必要だ、と考えての選択だった。

より広く、科学の魅力を還元したい

「理科や科学を軸にした仕事をしたい」と考えていた松浦さんは、学部生のときから博物館に通い、来館者に科学の魅力を伝えてきた。就職活動を通じて考えたのは、誰にそれを伝えたいか、ということだ。「博物館に来るのは、すでに科学への興味がある人が中心。私は、科学に対する知識が少なく、興味を持つ機会も多くない人たちに科学の魅力を伝えていきたいと考えたのです」。その思いを実現できるのは、誰もが理科に一度は触れる「学校」という場で働く「教員」という仕事だった。

その道のプロフェッショナルに対する憧れ

松浦さん自身も、理科の先生に影響を受けている。中学時代に松浦さんが所属していた生物研究部の顧問だったその先生は、独自でネズミの研究をしていた。生徒も一緒に山に入ってネズミを採取するなど、実物を扱っての研究に参加。この経験は、松浦さんの理科好きに拍車を駆けるとともに、研究者の魅力を感じる機会にもなったという。



「私の目には、その先生がネズミのことに関しては誰にも負けない『プロフェッショナル』として映っていました」。このとき感じた研究者に対する憧れは、その後、松浦さんの博士課程進学を後押しすることになった。

「専門性」とは、リアルな研究経験のこと

松浦さんが今取り組んでいる研究テーマは「ハタネズミの生物地理」。日本各地のハタネズミからDNAを採取、解析することで、分布拡大・縮小プロセスの推定を行う。1回あたり3泊4日もかかるサンプリングを繰り返し、研究期間は7年以上にも及ぶ。その中で松浦さんは「科学を伝えるために必要な専門性」を身につけてきた。「『専門性がある』というのは、難しいことを知っているということではなく、実際に研究を進める過程で積み上げてきた『リアルな経験』のことだと思うんです」。専門性がなければ科学の魅力は伝えられない。松浦さんには、揺るぎない信念がある。

松浦 宜弘（まつうら よしひろ）プロフィール

2010年、京都大学大学院理学研究科博士前期課程修了。同年、教員になることを決意し、京都大学大学院理学研究科博士後期課程進学と同時に教職課程の履修を開始した。2010年より甲南高等学校の非常勤講師。2016年より現職。

未来を掴む

「あんな研究者になりたい!」

目標が見つかったならば、そこに到達するための試行錯誤を繰り返し
一歩ずつ、でも着実に近づいていこう。

定める目標は、人それぞれ。
必要なことも、ひとりひとり異なるだろう。

共通するのはただひとつ、
やるべきこと、やりたいと思ったことを実際に行うこと。
最初は躊躇するかもしれないが、動いた分だけ目指す自分に近づくはずだ。
その一歩を踏み出すことで、見えるものが変わる。

自分の未来を、自分の手で掴みとろう。

あなたが目標に近づくための「一歩」をお手伝いします

研究キャリアの **相談所**

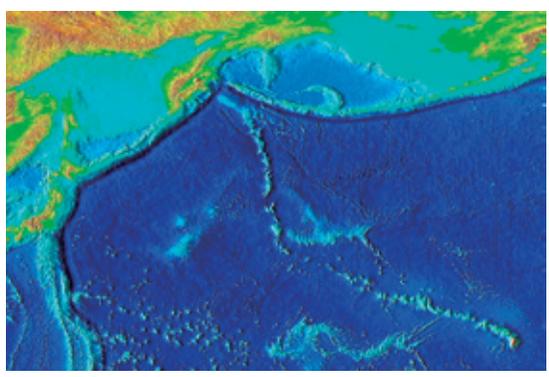


研究で培った考え方を活かし、社会で活躍したいすべての人のための相談所です

<https://r.lne.st/career/>

海底探査につながる技術をもつ研究者 必見！ — 海底の世界地図を創りませんか？ — 海底探査技術開発プロジェクト参加者募集

公益財団法人日本財団と株式会社リバナスは、海底地形の100% 解明を目指し、海底探査のための革新的技術の開発を支援する「海底探査技術開発プロジェクト (DeSET project)」を実施します。2017年6月1日に研究テーマの公募を開始しました。



海底というフロンティアの地図を描く

全地球面積の7割を占める海洋は、豊かな生態系、気象、水産資源、地震や津波等の災害といった多方面において、人間社会と大きく関わっています。一方、海底地形について100m程度の分解能で計測されている面積は海洋全体の15%以下とされ、未だ広大な未知の領域が残されているのが現状です。この未知の領域を既知へと塗り替え、全海底地形を明らかにすることで、津波の発生や水産資源の移動、気候変動、海底地震、鉱物や有機物等の海底資源、ケーブルやパイプラインの経

路等に対して、これまでにない有用な知見を得ることができるはずで

合同の新規チームで挑む

本プロジェクトでは、100m以下の分解能での海底地形図作成を飛躍的に加速する革新的な技術開発テーマを募集します。選考過程では、応募された研究者、企業の要素技術をかけ合わせ、超異分野のチームを作り、最終的に3つのチームによる開発を支援する予定です。自身の技術が少しでも活用できるかもしれないと感じたら、ぜひ応募してください。

DeSET projectは、2030年までに海底地形図の100%完成を目指す国際プロジェクト“Seabed 2030”の実現をサポートします。

- 公募期間 2017年6月1日～7月31日
- 実施内容 研究開発に対する資金・活動支援
- 助成内容 研究費 最大5,000万円 および社会実装に対する人的支援
- 採択件数 3件
- 研究期間 2018年1月～2019年2月(予定)

■募集対象
海底探査技術の発展に資すると考えられる、あらゆる要素技術。例えば、以下のような技術を想定していますが、これに限るものではありません。

- ・安価、小型のAUV/ROV製造・運用技術
- ・AUV/ROV/船舶の無人運用技術
- ・ソナー装置の小型化・低コスト化・高深度化技術
- ・人工衛星による海底地形マッピングの高深度化技術
- ・音波や磁気によらない水中センシング技術に関する研究
- ・深海で利用可能な新しい材料、構造設計等の要素技術
- ・既存の海底マップデータ(500m分解能等)を高精細化するデータ処理技術
- ・複雑な海域・海象における船舶等の設計最適化に関する基礎研究
- ・生物を模擬した潜水艦に関する基礎研究
- ・上記とは異なる方法により海底深度を取得できる技術

<https://deset.lne.st/>

DeSET PROJECT

研究者は、世界を変える力をもっている —ユニクロから最先端課題への招待状— ビジネスコンテスト「FR FRONTIER」エントリー募集

「ユニクロ」で知られる株式会社ファーストリテイリングが、若手を対象にした、最先端のビジネス課題にチャレンジするコンテスト「FR FRONTIER」を開催。優勝賞金は100万円で、事業部門と技術部門の2部門にエントリーできる。「ユニクロのEコマースの売上を10倍にする」という、一見すると理工系とは縁がないような事業課題に対しても、研究者や大学院生からの挑戦を期待しているという。その理由とは？



株式会社ファーストリテイリング
社長室 兼 総務・ES推進部 リーダー
くろやなぎ ともあき
畔柳 智明さん

研究者がファーストリテイリングで 求められる理由

企画の仕掛け人である畔柳智明さんも、かつては「理工系の研究者」だった。脳を構成する神経細胞がどのように情報を伝達しているのか、分子レベルで明らかにする研究に没頭する一方で、ごく初期のiPS細胞研究に多くの予算が投じられる様子を間近に見たとき、「この投資はどうやったら回収できるんだろう」などと考えていた。経営への興味は次第に大きくなり、畔柳さんはビジネスの世界に飛び込んだ。

研究畑という経歴はアパレル業界では“レア”な存在だったが、次第にこの会社では強みであることに気づいた、と畔柳さん。「研究者は、難しい仕事を何とかすることが得意。道具がなければ自分で作り、うまくいかなければ乗り越える方法をゼロイチで考える。言われたままのことをやるのではなく、自らの発想力で、世界を変えていく研究者の特性が、世界一を目指し、革新を続けるこの会社では高く評価されるんだと思いました」。

京都大学大学院理学研究科修了。博士（理学）。コンサルティングファームにて、精密機器メーカーや金属素材メーカーなどの多種多様な事業戦略をリード。2015年10月、ファーストリテイリングへ入社。前職での経験を生かし、社内教育改革、全社意思決定プロセスの改革、東京・有明への新オフィス移転プロジェクト等に参画。

研究者の「やりきる力」に期待

ファーストリテイリングの企業理念は、『服を変え、常識を変え、世界を変えていく』。この革新を続けるためには、研究者のようなやりきる力を持った仲間を増やしたいと考えた畔柳さん。ただ、アパレル企業に関心を持ってくれる理工系の学生が少ないと感じたことで、今回のコンテスト開催を思いついたそう。「ファイナリストは、経営陣に提案を直接ぶつけることもできます。このコンテストを通じて、少しでもアパレルビジネスの面白さを知ってもらえたらうれしいですね」。

研究者には、自らの発想力で、世界を変える力がある。さあ、FRONTIERへ踏み出そう。

FR FRONTIER

賞金総額300万円。ファイナリストはファーストリテイリング東京本部へご招待。代表取締役会長兼社長柳井正はじめ経営陣が、あなたのビジネスアイデアを実行につなげるための経営判断をその場で行います！

事業提案部門

■応募締切
2017年6月16日(金)

■テーマ
ユニクロの店舗が継続的に成長し、Eコマースが今の10倍の売上に成長するための総合的な施策提案

技術提案部門

■応募締切
2017年7月14日(金)

■テーマ
ファッション画像における洋服の「色」を分類するための新規機械学習アルゴリズム提案

自由な研究を応援します！

リバネス研究費 LNEst Grant

リバネスでは2001年の創業以来、一貫して研究を志す若手人材の育成を続けてきました。「科学技術の発展を支え豊かな社会を実現する研究者」を育て社会に輩出する——。その想いをかたちにしたのが、研究助成制度「リバネス研究費」です。自分の研究に熱い思いをもっている学部生・大学院生～40歳以下の若手研究者からの応募をお待ちしております。

未来を
掴む

第37回 リバネス研究費 募集要項発表!!

● JR東日本賞

対象分野

当社が保有するデータ等を活用した新たなサービス・顧客価値を創出する研究テーマ

JR東日本が保有する駅、鉄道、店舗等を活用し、人々が集まる「駅」の新たな価値創出に関するあらゆる研究テーマを募集する。

採択件数 3名

助成内容 研究費上限50万円

申請締切 2017年7月31日(月) 24時まで

● 東宝賞

対象分野

エンターテインメントにつながる全ての研究

採択件数 1件

助成内容 研究費上限50万円

申請締切 2017年7月31日(月) 24時まで

● 日本の研究.com賞

対象分野

研究課題・研究者データベースを活用したあらゆる研究

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2017年7月31日(月) 24時まで

URL 日本の研究.com <https://research-er.jp/>

● 吉野家賞

対象分野

店舗を取り巻く環境と人の行動変容の関係を追求する研究

建築学、環境工学、認知科学、脳神経科学、人間工学、心理学、行動学、動物行動学、運動科学、情報工学、環境デザインなど、幅広い科学・技術分野の研究を募集します。

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2017年7月31日(月) 24時まで

● L-RAD賞

対象分野

自然科学、社会科学、人文科学の研究、開発、調査全般

採択件数 2017年6月1日より6月30日までにL-RADに登録された申請書の中から若干名

助成内容 50万円

申請締切 2017年6月30日(金) 24時まで

採択者発表

第33回

オンチップ・バイオテクノロジーズ 1 cell biology賞

採択者 北海道大学農学研究院 助教 小出 陽平

研究テーマ名 倍数性はどのように生じるのか?—1花粉分析が解き明かす植物倍数性の創出機構

第33回

日本マイクロソフト賞

(特賞)

採択者 メルティン/MMI 取締役CEO 粕谷 昌宏

研究テーマ名 クラウド生体信号センサを用いたバイオデータのビッグデータ解析プロジェクト

(副賞)

採択者 慶應義塾大学 政策・メディア研究科 博士後期課程1年 河野 慎

研究テーマ名 異種データによる都市の状況推定のための表現学習

(副賞)

採択者 千葉工業大学大学院 工学研究科 博士後期課程1年 宇井 吉美

研究テーマ名 においセンサを用いた非装着型排泄検知システム

第34回

L-RAD賞

採択者 京都大学大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻 助教 藪塚 武史

研究テーマ名 新規生体活性チタン合金製骨修復材料の創成

採択者 東京都医学総合研究所 ゲノム医科学研究分野 感染制御プロジェクト 主任研究員 日紫喜 隆行

研究テーマ名 抗 Dengue ウイルス薬開発に向けたウイルス複製機構の解明

第36回

超異分野教育賞

採択者 鳥取大学 大学院工学研究科 助教 三浦 政司

研究テーマ名 「Game-Based Situation Prototyping」を用いた超異分野教育手法の開発

採択者 大阪府立大学工学域電気電子系学類 情報工学課程 藤野 紗耶

研究テーマ名 進化型深層学習によるユーザの感性推定機構を有する対話型絵本の提案

採択者 東京大学 大学院教育学研究科 河本 愛子

研究テーマ名 高校での学校行事体験は高校3年間を通じた社会情緒性の変化といかに関わるのか：縦断データを用いた検討

採択者 東京大学大学総合教育研究センター 特任研究員 正木 郁太郎

研究テーマ名 研究コーチの効果測定

第36回

留学生賞

採択者 北海道大学 応用生命科学専攻 Lahrita Lucy

研究テーマ名 Development of new anti-obesity agents from Indonesian medicinal plants

詳しくはこちらをご覧ください
<https://r.lne.st/grant/about/>

これからの研究者に必須のちからを身につけよう！

サイエンスブリッジリーダー育成講座 2017年前期講座

科学技術を学んだ人が、科学技術を活かして世の中に貢献していく人材になるためには、世の中に対して独自の課題意識をもち、主体的に行動していくことで課題を解決するための力が必要です。株式会社リバネスでは、科学を軸に、社会の中で課題を見つけ、新しい価値を生み出すことのできるリーダー人材を「サイエンスブリッジリーダー(SBL)」と位置づけ、独自に認定しています。

座学研修では、これからアカデミアや企業で活躍する際にも重要な、コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティング、マネジメント、リーダーシップを鍛える方法を学びます。

■ スケジュール

研修名	日程
リーダーシップ研修	6月 4日(日) 10:00～12:00
コミュニケーション研修	6月 11日(日) 10:30～12:00
プレゼンテーション研修	6月 18日(日) 10:30～12:00
ライティング研修①	6月 25日(日) 10:30～12:00
ライティング研修②	7月 2日(日) 10:00～12:00
ライティング研修③	7月 9日(日) 10:00～12:00
マネジメント研修	7月 16日(日) 10:30～12:00

■ 注意事項

- ・原則、全講座の受講をおすすめします。
- ・ライティング研修は3回連続受講可能な方のみ受講可能です。
- ・座学研修だけではサイエンスブリッジリーダーの資格は得られません。資格認定には、実地研修と最終面談が受けられるリバネスのインターンシップへの参加が必要になります。

■ 会場

東京会場：株式会社リバネス 知識創業研究センター
東京都新宿区下宮比町 1-4 飯田橋御幸ビル 4 階

大阪会場：株式会社リバネス 大阪事業所
大阪府大阪市中央区北浜 1-5-7 北浜 MD ビル 2 階

■ 受講料

テキスト代：3000 円

受講料 1 講座あたり：学生 1000 円 社会人 3000 円

*申込み後、銀行振込み

■ 申込み・詳細 「研究キャリアの相談所」ウェブサイトをご覧ください。

<https://r.lne.st/2017/02/06/sbl-first/>



リバネスキャリアイベント 「Visionary Cafe」東京&大阪で開催

リバネスは、1人1人がもつ「熱」を大事にしている会社です。リバネスのことを知ってもらうには、役員陣の「熱」に触れてもらわなくては。私たちはそう考えて、リバネスの将来の仲間を集めるイベントを役員とのランチセッション「Visionary Cafe」にしました。何かに「熱」を持って取り組みたいと思っている方、個性豊かなリバネスの役員に、自分の意見や世界を変えるアイデアをぶつけてみませんか？

■ 第 19 回 Visionary Cafe (東京開催)

日時：7月9日(日) 10:30～13:00 (11:45 よりランチ)

場所：リバネス知識創業研究センター (東京都新宿区下宮比町 1-4 飯田橋御幸ビル 4 階)

参加費：1000 円 (ランチ代)

申込み：<https://r.lne.st/2017/05/24/visionary-cafe19/>



■ 第 3 回 Visionary Cafe Osaka (大阪開催)

日時：7月16日(日) 15:00～17:30

場所：リバネス大阪事業所 セミナー室 (大阪府大阪市中央区北浜 1-5-7 北浜 MD ビル 3 階)

参加費：1000 円 (ドリンク・軽食代)

申込み：<https://r.lne.st/2017/05/24/visionarycafe-west-3rd/>



紹介します!

研究キャリア応援講座

大学や大学院では、卒業・修了後のキャリアパスを考えるきっかけをみなさんに提供し、社会で活躍できる人材として羽ばたけるようにとさまざまな講座が開かれています。リバネスも、その中のいくつかでお話をさせていただきました。今回は、2017年3～5月に実施したものを紹介します。



←大阪大学工学部「キャリアデザイン」は毎年300名もの学生が集まる人気科目。今年は4月20日にリバネスの代表取締役CEOの丸幸弘が登壇し、自身のキャリアを振り返りながら学生に向けたメッセージを届けた。

→広島大学での様子。リバネスの研究開発事業部部長の西山哲史が取り組みについて紹介した。



2017年3～5月に実施した研究キャリア応援講座

- 3月6日 徳島大学 大学発ベンチャーシンポジウム:アカデミア研究を社会へ実装する
- 4月17日 京都府立医科大学:企業との連携で研究アイデアを具現化する～産学連携の新しい形～
- 4月18日 京都府立大学 第28回 生体物質化学セミナー:研究者から世界を変える方法～研究者の強みを活かしてビジネスを仕掛ける～
- 4月18日 広島大学 企業とのネットワークゼロからでも始められる外部資金獲得講座:企業との連携で研究アイデアを具現化する～産学連携の新しい形～
- 4月20日 大阪大学工学部 総合科目III「キャリアデザイン」:キャリアデザインとは
- 4月21日 東京理科大学 情報科学コロキウム:「研究者」こそが新しい価値を創出する
- 5月16日 東京都市大学 特別講演:研究者こそが世界を変えるリーダー人材になる
- 5月11日 立命館大学 教養ゼミナール「ヘルスケア・スポーツ領域のためのデザイン思考」:スタートアップ経営者
- 5月25日 立命館大学 教養ゼミナール「ヘルスケア・スポーツ領域のためのデザイン思考」:QPMI

今後の実施予定

- 6月1日 立命館大学 教養ゼミナール「ヘルスケア・スポーツ領域のためのデザイン思考」:ビジネスプラン申請書の作成方法
- 6月10日 龍谷大学 龍(ドラゴン) 起業塾

リバネスでは、大学生・大学院生～ポスドク等の若手研究者のキャリアを支援するため、さまざまな研修やセミナーを企画・実施しています。また、若手研究者の自由な研究を後押しする独自の研究助成「リバネス研究費」や、外部資金獲得のための新しい仕組み「L-RAD」、研究成果の社会実装を応援する「TECH PLANTER」などの取り組みに関する説明会も随時開催しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

できることを増やしたい。 本当にやりたいことが見つかったときのために



大安 晃さん

大阪府立大学 大学院工学研究科
物質・化学系専攻 化学工学分野
博士後期課程1年

工場から出る排気ガスを資源として利用できないか、という研究を行う大阪府立大学大学院の大安晃さん。自分の研究テーマから発案したビジネスプランのコンペに参加する、分野の垣根を超えて学生が集まる学内研究交流会を立ち上げるなどの活動も、精力的に行っている。そのきっかけは、自分の将来を考えるたびに強まる危機感からだった。

研究を深めつつ視野を広げたい

学生実験を機に研究のおもしろさを知り、それを深めてみたいと思うようになった。子どもの頃から「教員」だけを目指してきた大安さんは、研究をしながらそれ以外の世界にも目を向けようと、産業界で活躍する博士人材を育成することを主眼としたプログラムが組まれている大阪府立大学のリーディング大学院に進学した。

修士1年の12月。周囲の友人は研究成果も出始め、学会で多くの発表もしている。インターシップに参加するなど、就職を意識した動きも出てきた。「自分だけ何もしていない」という焦りの中、メールで届いた「ビジネス構想コンペティション」というイベントへの参加募集が目にとまった。

危機感が生んだ行動力が、視野を広げる

ビジネス構想コンペティションは、リーディングプログラムに所属する学生から社会的課題の解決を事業に結びつける提案を募り、それに企業人のビジネス的な視点を融合させて新たな事業構想

を生み出し、競い合うイベントだ。「まずは一歩踏み出そう」との思いから、友人を誘って応募。互いの研究の専門性を活かしたプランで優秀賞を獲得した。企業の人とのディスカッションを通して「本当にやりたいことを見出すことの大切さや、自分の研究を活かせる分野の可能性など、本当にたくさんのことに気づかせてもらいました」。1つの決意と行動が、大安さんの世界を広げたのだ。

「どちらか」ではなく「両方」伸ばす

新しいことへの挑戦で得られる学びの大きさを実感した大安さんは、その後も、次々とチャレンジを続けている。「教員になるかどうか、この先についての結論は出ていません。ただ、本当にやりたいことが見つかったときのために、自分の力を伸ばしておきたい。自分の力不足でそれができないのは嫌なので……」と大安さん。専門性が幅広い力か、どちらかではなく「どちらも」伸ばすことは、キャリアを築く強固な土台となるだろう。

(文・戸金 悠)

研究キャリアの相談所

募集中の求人情報

研究に熱い企業があなたを待っています！

QRコードから各求人の詳細情報をご覧いただけます。興味のある方は各ページの「エントリーする」からご応募ください。リバネスの担当者からご連絡します。

株式会社かずさ ゲノムテクノロジーズ

「公益財団法人かずさDNA研究所」が長年にわたる研究により蓄積してきた遺伝子資源を基盤とし、その製造・販売、関連試料の分析、解析受託およびコンサルティングを行っています。

募集職種

新規事業開発・企画、
フィールドテクニカル
サポート



株式会社 DG TAKANO

社長直下の研究開発チームを立ち上げ、異分野の研究者たちとともに自由な発想で地球環境の問題解決に向けた研究開発を行います。

募集職種

研究開発職



4D センサー株式会社

超高速・高精度・小型・安価な三次元形状・変形計測装置の開発および販売を行っています。

募集職種

プログラマ



ナノサミット株式会社

ナノ素材で世界の機能性材料の頂点を目指し、材料革命による新たな未来を創造する会社です。

募集職種

研究開発（化学系・電気系統）・キャパシタ
バッテリーの開発・生産



アミノアップ化学株式会社

AHCC やオリゴノール等の自然の恵みをテーマに、天然物由来の機能性素材を研究・開発しているメーカー企業です。

募集職種

学術室職



株式会社メタジェン

腸内環境をデザインするリーディングカンパニーです。慶應義塾大学および東京工業大学の研究分野で培われた確かな解析技術、メタボロゲノミクス™により腸内環境を評価します。

募集職種

主任研究員、バイオインフォマティクス・スペシャリスト



お問い合わせはこちらまでお願いします **研究キャリアの相談所** <https://r.lne.st/career/>
E-mail : career@leaveanest.com 担当：環野（東京本社）、磯貝（大阪事業所）

有料職業紹介事業 ・ 許可番号：13-ユ-300411 ・ 範囲：国内における科学技術における専門的・技術的職業



人材応援 プロジェクト

私たち株式会社リバネスは、知識を集め、コミュニケーションを行うことで新しい知識を生み出す、日本最大の「知識プラットフォーム」を構築しました。教育応援プロジェクト、研究応援プロジェクト、創業応援プロジェクトに参加する多くの企業の皆様とともに、このプラットフォームを拡充させながら世界に貢献し続けます。

(50音順)

株式会社 IHI
アサヒ飲料株式会社
株式会社 aba
株式会社池田理化
ウシオ電機株式会社
江崎グリコ株式会社
SMB C日興証券株式会社
株式会社オークファン
オムロン株式会社
オリエンタルモーター株式会社
オリックス株式会社
オリンパス株式会社
株式会社オンチップバイオテクノロジーズ
川崎重工業株式会社
関西国際学園
キヤノン IT ソリューションズ株式会社
協和発酵キリン株式会社
株式会社クラレ
株式会社グローカリンク
KEC 教育グループ
コクヨ株式会社
コニカミノルタ株式会社
近藤科学株式会社
サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社
株式会社 J C U
株式会社ジェイテクト
敷島製パン株式会社
株式会社シグマックス
株式会社小学館集英社プロダクション
新日鉄住金エンジニアリング株式会社
新日本有限責任監査法人
株式会社神明
セイコーホールディングス株式会社
ソルベイ・スペシャルケム・ジャパン株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
THK 株式会社
株式会社 DG TAKANO

D.C.TRAINING JAPAN 株式会社
株式会社デンソー
東宝株式会社
東洋ゴム工業株式会社
東洋紡株式会社
東レ株式会社
凸版印刷株式会社
日本たばこ産業株式会社
日本ナショナルインスツルメンツ株式会社
日本ポール株式会社
日本マイクロソフト株式会社
日本ユニシス株式会社
パーク 24 株式会社
株式会社バイオインパクト
株式会社浜野製作所
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社日立ハイテクノロジーズ
富士ゼロックス株式会社
ブルームーンパートナーズ株式会社
株式会社プロトコーポレーション
本田技研工業株式会社
松谷化学工業株式会社
三井化学株式会社
株式会社メタジェン
森永乳業株式会社
森下仁丹株式会社
山芳製菓株式会社
山本漢方製薬株式会社
ヤンマー株式会社
株式会社ユーグレナ
株式会社吉野家
株式会社吉野家ホールディングス
リアルテックファンド
ロート製薬株式会社
Rolls-Royce Holdings plc
ワタミ株式会社
ワールドキャリア株式会社

学部・院生のための研究キャリア発見マガジン

『incu・be』とは

『incu・be』は、目標を見つけ、それに向かって実力を養い (incubate)、未来の自分をつくり出す (be) ためのきっかけを提供します。自らの未来に向かって主体的に考え行動する若手研究者を、企業・大学とともに応援します。

研究応援教員とは

研究の世界に踏み出そうとしている学生に対し「研究キャリア」を考えるきっかけを学生に提供するため、『incu・be』の配布等にご協力くださる先生方を募集しております。『incu・be』を毎号、ご希望の部数を無料でお届けする他、リバネス研究費やキャリアイベント等のお知らせをメールにてお送りいたします。

ご協力いただける場合には、下記のフォームからご登録をお願いします。

<https://r.lne.st/professor/>

研究応援教員 (敬称略)

【University of California】 田原 優
【愛知学院大学】 市原 啓子
【金澤大学】 寺園 淳也
【藍野大学】 外池 光雄
【麻布大学】 滝沢 達也
【医薬基盤・健康・栄養研究所】 米田 悦啓
【岩手県立大学】 山本 健
【茨城大学】 木村 成伸、鈴木 健仁、中村 麻子
【宇都宮共科大学】 須賀 英之
【宇都宮大学】 糸井川 高穂
【江戸川大学】 福田 一彦、浅岡 章一
【大阪市立大学】 蔡 凱、中臺 枝里子、長崎 健
【大阪工業大学】 河村 耕史
【大阪大学】 中野 貴由、大竹 文雄、森島 圭祐、村田 亜沙子、杉本 宣昭、久武 信太郎、佐藤 尚弘、森 勇介、原田 慶恵、瀬恒 謙太郎、井上 克郎、笹野 佑、岡本 行広、梶原 康宏
【大阪電気通信大学】 小枝 正直、鄭 聖憲
【大阪府立大学】 中野 長久
【学習院大学】 清末 知宏
【神奈川工科大学】 白井 曉彦
【神奈川大学】 衣笠 竜太
【関西学院大学】 巴波 弘佳
【関西大学】 河原 秀久、片倉 啓雄、工藤 宏入
【基礎生物学研究所】 倉田 智子
【九州大学】 中村 大輔、清水 邦義、近藤 哲男
【京都学園大学】 松原 守
【京都工芸繊維大学】 津吹 達也
【京都府立大学】 前野 悦輝、川本 純、篠原 真毅、實 馨、小野 正博、土居 雅夫、富田 良雄、中野 伸一、河井 重幸、森和俊、山口 栄一、奥野 恭史、浅見 耕司、今村 公紀
【京都府立大学】 高野 和文
【近畿大学】 生垣 研一
【熊本大学】 杉本 忠
【群馬大学】 北村 忠弘
【慶應義塾大学】 犀川 陽子、大前 学、竹村 研治郎、藤本 啓二、中西 泰人、久保 健一郎
【県立広島大学】 阪口 利文
【高エネルギー加速器研究機構】 大谷 将士
【工学院大学】 長谷川 浩司
【高知大学】 小島 優子
【甲南大学】 久原 篤
【神戸大学】 森垣 憲一、影山 裕二
【国際基督教大学】 小林 牧人
【国立遺伝学研究所】 有田 正規
【国立環境研究所】 一ノ瀬 俊明、中島 英彰、大田 修平
【国立成育医療研究センター】 要 匡
【埼玉県立大学】 国分 貴徳
【埼玉大学】 長谷川 有貴
【産業技術総合研究所】 長谷川 良平、三輪 洋晴、小関 義彦、高島 一郎、宮崎 真佐也、藤原 すみれ
【静岡大学】 竹内 浩昭、成川 礼、田中 滋康

『incu・be』の配布・設置について

『incu・be』は、全国の理工系大学・大学院の学生課・就職課・キャリアセンター等に設置いただいているほか、「研究応援教員」のご協力により研究室や講義にて配布いただいております。また、Amazonや全国書店にてお買い求めいただくこともできます。学校単位での配布・設置をご希望の場合、その他お問い合わせは下記までご連絡ください。

株式会社リバネス 人材開発事業部 incu・be編集部

TEL : 06-6125-5622

E-mail : incu-be@lne.st



348名

【自然科学研究機構】 小泉 周
【島根大学】 荒西 太士
【首都大学東京】 降井 厚、小町 守、岡部 豊
【上智大学】 早下 隆士
【信州大学】 清水 雅裕、片岡 正和
【成城大学】 境 新一
【摂南大学】 白鳥 武
【総合研究大学院大学】 本郷 一美、五條 堀 淳
【玉川大学】 木村 實、佐藤 久美子
【千葉大学】 後藤 英司
【千葉工業大学】 富山 健
【中央大学】 船造 俊孝、山田 正、谷下 雅義、中村 太郎、楠田 祐
【筑波大学】 渡辺 知恵美、永田 毅、小宮山 真、足立 和隆、小林 正美、濱 健夫、鈴木 石根、岩田 洋夫、黒沢 良夫、櫻村 浩一
【電気通信大学】 來住 直人
【東京医科歯科大学】 鐔田 武志、木村 彰方
【東京海洋大学】 竹内 俊郎、廣野 育生、戸田 勝善、岡本 信明
【東京工科大学】 佐々木 和郎
【東京工業大学】 川本 思心、関崎 政和、猪原 健弘、長谷川 晶一、山本 拓矢、太田 啓之、因幡 和晃
【東京工芸大学】 西宮 信夫、森山 剛、大海 悠太
【東京歯科大学】 武田 友孝
【東京大学】 西成 活裕、生長 幸之助、矢作 直也、井上 将行、堅田 利明、船津 高志、村田 茂穂、吉田 文人、坪井 久美子、金子 知道、金井 崇、山口 泰、文子 邦彦、藤垣 裕子、吉田 朋広、河澄 響矢、儀我 美一、酒井 邦嘉、植田 一博、新井 宗仁、渡邊 雄一郎、小野瀬 佳文、豊田 太郎、吉本 敬太郎、前田 京剛、豊島 陽子、有岡 学、岡本 晃充、大口 敬、日比谷 紀之、横山 央明、三浦 正幸、加藤 孝明、星野 真弘、平川 一彦、半場 藤弘、枝川 圭一、ビルデア マーカス、桑野 玲子、沖 大野、野城 智也、稲葉 寿、河東 泰之、寺嶋 友秀、楠岡 成雄、齊藤 宣一、横井 秀俊、野口 祐二、榎森 康文、近藤 豊、安藤 恵理子、大石 恵章、小河 正基、中村 泰信、堤 敦司、黒田 真也、森川 博之、森田 一樹、小林 徹也、小柳津 広志、中須賀 真一、五十嵐 健夫、開一夫、柳田 裕徳、嶋田 透、大島 まり、中村 尚、菅 裕明、牧野 義雄、相田 卓三、畑中 研一、油谷 浩幸、松永 行子、村上 智一、神崎 亮平、岡部 徹、杉本 宣昭
【東京電機大学】 大西 謙吾、世良 耕一、長原 礼宗
【東京農業大学】 志和地 弘信、根根 義昌、中西 康博、坂田 洋一
【東京農工大学】 養王田 正文、大野 弘幸、新垣 篤史、佐藤 令一
【東京薬科大学】 太田 敏博
【東京理科大学】 徳永 英司、諸橋 賢吾、梅村 和夫、武田 正之、島田 浩章、橋本 卓弥、越地 耕二、朽津 和幸、金子 敏宏、山本 誠
【同志社大学】 太田 哲男、小寺 政人、石浦 章一
【東邦大学】 岸本 利彦
【東北大学】 斎藤 将樹、山崎 翔平、青木 優和、鈴木 高宏、若林 利男、関 真之、五十嵐 太郎、高橋 富男、布施 直之
【東洋大学】 下村 講一郎
【鳥取環境大学】 足利 裕人
【鳥取大学】 久郷 裕之、押村 光雄
【富山県立大学】 立田 真文、古澤 之裕
【富山大学】 杉森 道也
【豊橋技術科学大学】 後藤 尚弘
【名古屋産業大学】 伊藤 雅一
【名古屋大学】 村瀬 洋
【名古屋文理大学】 長谷川 聡
【奈良県立医科大学】 大野 安男
【奈良女子大学】 遊佐 陽一
【奈良先端科学技术大学院大学】 別所 康全、駒井 章治
【新潟大学】 藤村 忍
【日本女子大学】 宮崎 あかね
【日本大学】 福田 昇、浅井 朋彦、佐甲 徳栄、有坂 文雄、伊藤 賢一、畔柳 昭雄、高橋 芳浩、野呂 知加子、渡邊 泰祐、宮崎 康行、遠藤 央
【農業・食品産業技術総合研究機構】 大坪 憲弘
【光産業創成大学院大学】 瀧口 義浩
【兵庫県立大学】 藤原 義久
【広島大学】 西畑 正英、坂田 省吾、田川 訓史、江坂 宗春、実岡 寛文、兼松 隆、長沼 毅
【福井大学】 沖昌也
【法政大学】 杉戸 信彦、大島 研郎、新井 和吉、小池 崇文
【北海道科学技術総合振興センター】 本間 直幸
【北海道大学】 住友 秀彦、河西 哲子、樋口 直樹、笠原 康裕、日野 友明、山中 康裕
【三重大学】 松岡 守
【宮崎大学】 荒川 有美、林 雅弘、明石 良
【武蔵川女子大学】 升井 洋至
【武蔵野大学】 荒木 義修
【明治大学】 矢野 健太郎
【山形大学】 戸森 央貴、綾部 誠、永井 毅
【横浜国立大学】 向井 剛輝、中村 達夫、金子 信博、小倉 里江
【理化学研究所】 工樂 樹洋、大武 美保子、篠崎 一雄
【立教大学】 山田 康之、上田 恵介、関根 靖彦
【立命館大学】 山下 茂、西浦 敬信
【琉球大学】 荒川 雅志、與那 篤史、福田 雅一、千住 智信、赤嶺 光、松本 剛、大角 玉樹、岩崎 典公、瀬名波 出、新里 尚也、浦崎 直光、徳田 岳、嬉野 健次、久保田 康裕
【労働安全衛生総合研究所】 久保 智英
【早稲田大学】 尾形 哲也、本間 敬之、田中 宗 (2017年5月1日現在)

++ 編集後記 ++

『incu・be』は、判型も変え「学部・院生のための研究キャリア発見マガジン」として再びリニューアルしました！ 読者のみなさんに、自分らしい研究キャリアを発見してもらえるよう、さまざまなコンテンツをお届けしていきます。

今号の特集では、今まさに自分の道を自分らしく歩んでいる3名の研究者がこれまでを振り返り、「これが効いたのかな」というポイントを教えてくれました。ぜひそれらを参考に、6月24日(土)の「キャリアディスカバリーフォーラム」で、自分だけの研究キャリアを「ディスカバリー」していただければと思います。 (戸金 悠)



2017年6月1日 発行

incu-be 編集部 編

staff

編集長 戸金 悠

art crew クリタミノリ

清原 一隆 (KIYO DESIGN)

編集 磯貝 里子

記者 武田 隆太 / 大安 晃 / 中島 翔太

発行人 丸 幸弘

発行所 リバネス出版(株式会社リバネス)

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4

飯田橋御幸ビル5階

TEL 03-5227-4198

FAX 03-5227-4199

E-mail incu-be@lne.st (incu-be 編集部)

リバネス HP <https://lne.st>

印刷 合資会社 三島印刷所

© Leave a Nest Co., Ltd. 2017 無断転載禁ず。

ISBN 978-4-907375-99-5 C0440

研究に効く○○○

『ビジネスモデルを見える化するピクト図解』



板橋 悟 著
ダイヤモンド社

「ピクト図解」とは、ビジネスモデルをシンプルな記号を用いて図にし、可視化するツールだ。研究テーマをベースにしたビジネスコンテストに参加した際、その事前講義においてこの本の著者である板橋悟先生に直接ご指導いただく機会があった。私はそれ以来、研究戦略を練る際にも「ピクト図解」を使っている。自らの研究を整理し、他の人に説明する際に非常に有用なものであると強く感じたからだ。板橋先生自身が理系の出身ということもあってか、私たち理系の研究者が理解、納得しやすいように書かれている気がする。自分の研究を人に伝えることや、研究の立ち位置を把握することが苦手な人に、ぜひこの本をオススメしたい。(文・大安 晃)